

市川の歴史

発行：八戸市立市川中学校地域学校連携協議会
 校長：馬渡教二 会長：小向龍悦

〈市川の歴史年表④〉

西暦	和 暦	で き ご と 等
1891	明治24年	東北本線開通。東京青森間の所要時間は31時間25分。4円55銭。
1896	明治29年	「明治三陸大津波」：(6月15日19:30ごろ地震発生)。市川の死者は28名、全壊家屋31、半壊家屋13戸。
1896	明治29年	多賀小学校が全焼。(3月9日)
1911	明治44年	多賀・轟木連合運動会が開催される。(轟木小学校校庭)
1915	大正4年	河口で合流していた奥入瀬川と五戸川が分離・切替
1923	大正12年	「市川(川の名称)」が「五戸川」の名前に統一される。
1925	大正15年	東北本線に轟木信号所が開設される。
1939	昭和14年	旧日本陸軍飛行場の建設が始まる。(現在の陸上自衛隊用地) 近隣の市町村民・中学生などが勤労奉仕
1939	昭和14年	多賀小学校が全焼(学芸会の日)
1941	昭和16年	旧日本陸軍飛行場が完成。(12月8日太平洋戦争勃発→日本政府が決めた正式名称は大東亜戦争)
1944	昭和19年	陸奥市川駅が開設される。(轟木信号所が駅に昇格)
1945	昭和20年	7月14日から、米軍の飛行機約40機による空爆が始まる。陸軍飛行場や東北本線等が被害を受ける。8月15日、我が国がポツダム宣言を受諾。敗戦。(日本が正式に降伏文書に調印したのは、9月2日)
1945	昭和20年	米軍約700名が進駐。後に最大3~5千人 昭和31年撤退
1945	昭和20年	陸奥市川駅にRTO(鉄道輸送事務所)が置かれ、職員は最高で100名を越えた。~昭和31年まで。(現在は、無人駅)
1947	昭和22年	轟木小学校及び多賀小学校に、それぞれ中学校を併置・開校
1948	昭和23年	市川村立轟木小学校水目沢分校開校。1~3学年までの1学級。児童数は50名。校舎は、旧日本軍の通信隊舎を使用。
1949	昭和24年	市川村漁業協同組合結成。初代組合長は木村一郎
1950	昭和25年	警察予備隊三個大隊、約3,500人が駐屯。~昭和26年まで。米軍から訓練を受ける。
1951	昭和26年	市川村立桔梗野小学校開校。3学級146名。初代校長は鈴木秀勝

八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木村 隆一
 参考資料：「日本歴史地名体系②」「新編八戸市史・地誌編」「五戸町史」「百石町史」「流れる五戸川」「桔梗野地区防犯協会50周年記念誌」ほか

